

「ICTを活用した思考力・判断力・表現力の育成－シンキングツールの効果的な導入により、研究主題として、東京都板橋区立上板橋第四小学校（荒井亮宏校長、児童数342人）は、パナソニック教育財団の「第39回（平成25年度）実践研究助成特別研究指定校」として平成26年度までの2年間、研究に取り組んでいる。

同校では助成金で、電子黒板、タブレットPC10台などが整備され、ホワイトボードなどを含むシンキングツールを用いた授業が展開されている。シンキングツールとは、思考を促進させるために用いる様々な図、線道具で、場面によって使い分ける。

11月下旬に行われた校内研究会では、3年1組（小林義伸教諭、児童数25人）が、学級活動「よくかんで食べる食習慣づくり」の授業を公開した。

同様の給食は、苦手なものは減らしてもよいとしている。その一方で、食べ方に工夫のマナーの指導が多く、「かむ」ことに言及してこなかったので、健康な体づくりのためにも「かむ」ことに着目した授業をすることになりました。

この日は、学習指導要領の「特別活動・学級活動・共通事項(2)日常の生活や学習への適応及び健康安全・食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成」に基づき、栄養士の協力を得て行われた。

(公財)パナソニック教育財団今年度第39回特別研究指定校

かむ回数タブレットPCで確認

東京都板橋区立上板橋第四小学校



給食を食べている様子を動画で確認

童に確認させ、「みんなはいいみたい、10回くらいかむこと」のメリッタについて問うた。

授業では冒頭、小林教諭が「『よくかむ』ためのマイ・アイデアを考えよう」と板書し、給食の時間に撮影した児童が食べている場面を電子黒

シンキングツールで思考深める

板に映し出した。

「かんでいるかどうかを見てほしいから、口元に注目して複数の児童が食べている」と複数の児童が食べている場面を映し、どれくらいかんでいるのかに着目させた。

加えて、児童全員がどれくらいかんでいるのかを確認するため、あらかじめ、クラス全員の食べている状況が撮影されている動画が見られるタブレットPCをグループごとに配布した。

児童らは、自分が食べている様子を見て、何回くらいかんでいるのかを数えていく。

タブレットPC本体を持っている児童は、対面する児童に見やすくするために、本体を半回転させて画面表示を相手向きに自動切り換えるなど、使い慣れている様子がうかがえる。

同教諭は、「かむ」実態を見

て試してみた。

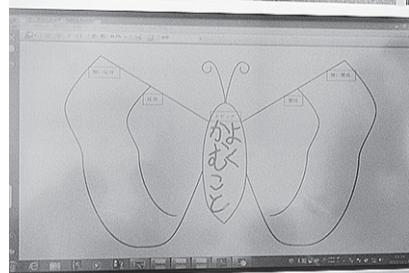
10回では「飲み込めない！」など、あちこちから声が上がった。30になると「甘くなってきた」「なくなっちゃった」と感想は様々だ。

ここで同教諭はバタフライチャート（右下写真）を配布し、自分の意見を書き込むよう指示した。この図は、真ん中の胴体部分にトピック「よくかむこと」と記入し、右の羽部分に「賛成」「強い賛成」、左の羽に「反対」「強い反対」を書くようになっているシン

キンギングツール。

児童らは、賛成意見として「力が出る」「あごが強くなる」「細かくなつて飲み込みやすい」「おいしい」などと記入している。

その後、グループごとに手帳ボードに記入し、互いに意見交換して、再び自分のバタフライチャートに戻り、「マイ・アイデア」を決めて個人記入を進めていく間にタブレットPCで児童のチャートを撮影して電子黒板に投影。マイ・アイデアには「30回は大変だけど、いいこともあるからがんばる」「回数を20回にする」と記され、苦肉の策や努力目標が見えてきた。



そこで児童らのマイ・アイデアを評価し、「さあ、いつから始める？」「今でしょう」はためだよ。ちなみに先生のマイ・アイデアは奥さんの前ではよくかむです」とジョークを交えながら、これからはかむことを大事にして食事をしようと呼びかけて、この日の授業を終えた。

授業後の協議会では、「子どもたちが自分の食べている様子を電子黒板やタブレットPCで確認できたのがよかったです」「思考の観点は4つではなく、2つでもよかつたかも」「ホワイトボードを使った話し合いにはファシリテーターを立てた方がよかつたかも」などの意見が出された。

講評を行った元小学校教員荒川深雪さんは、「ICTでは、無意識に使えるようになればそれが一番」とし、II=アイデア、O=チルドレン、T=ティーチャーの「ICT」三者が本当の意味で育っていくことが望ましいとし、今後の研究に期待を込めた。